



A. 玄関には空間のアクセントになるビビッドカラーのパネルヒーターを設置し、洗面所にはタオルハンガーを兼ねたタイプを採用。2階のフリースペースでは、階段との間仕切りにパネルヒーターを利用しているのがポイント B. 窓を多く設けつつも通風を確保することで夏は涼しく過ごことができ、冬は日射の効果に加えて、窓下に配置したパネルヒーターがコールドドラフトを防ぎ暖かな環境をつくる C. 南向きに庇を出して夏の日射をカットし、冬は取り込む。窓は、大きくても冷放射が感じられないトリプルガラスを採用している D. Q値1.05、C値0.15と、北海道レベルをはるかに超える高性能住宅。だからこそ設備過剰にならないよう大きさが選べるのもパネルヒーターの利点



「東日本大震災以来、冬に停電しても急激に室内の温度が下がらない、断熱・気密性能の高い高性能な住まいづくりへの関心がとても高まっています」と話す仲野谷勝洋社長。同社は北海道レベルをも超える高性能な住まいづくりに取り組み、自社大工による施工に一貫してこだわりの地域密着の工務店です。

「断熱・気密性能の高い住まいでは、消費する冷暖房エネルギーが節約できるため、建築費のインシャルコストが多少割高になっても、ランニングコストを抑えられるのがポイントです。家中どこへ行っても一定の温度が保たれている高断熱・高气密住宅にとつて、パネルヒーターは相性のいい優れた暖房機器と言えます。なぜなら、使う部屋ごとに温度調節をしたり、スイッチのオン・オフができるからです」と仲野谷さん。例えば、リビングやダイニングなど家族が集う部

屋は温かく、主寝室や客間などは低めに温度設定したいという希望にも、パネルヒーターなら簡単に対応可能。手軽に快適な室内環境を維持できるので、暖房エネルギーの無駄が無いと言います。さらに、玄関にはコートハンガー機能、洗面所にはタオルハンガー機能を備えたものなど、デザインや色も含めて住む人の好みや使い勝手に合わせて選べるという利点もあります。

設計する上では、自然エネルギーの有効利用も考慮。冬は太陽の位置が低く窓からの陽射しが部屋の奥まで届くことから、南向きの窓は大きくして日射を取り込み、その分、日中のパネルヒーターの設定温度を低くできるようにしているそう。「今後は住宅性能をより高め、日射制御や通風といった設計上の工夫も駆使しながら、冷暖房エネルギーをできる限り少なくしていきたいと考えています」。

## ライフスタイルにあわせた 使い方ができるのが魅力

A: 秋田県仙北市・Sさん宅  
B: 秋田県仙北市・Nさん宅  
C: 秋田県大仙市・Fさん宅  
D: 秋田県大仙市・Wさん宅  
設計・施工 / (有) 仲野谷工務所